



西部土づくりセンター施設見学会

環境保全型農業や有機農業の推進に向けて

土づくりの大切さをみんなで学ぶ 土づくりセンター見学と黒豆収穫体験会

安武町・西部土づくりセンター

自然にやさしい農業

地域資源を生かした 安全で安心な 土づくりを推進



久留米市は、3千頭以上の乳牛が飼養される
県内最大の生乳の産地です。

久留米市は、古くから畜産業が盛んな地域で、その排せつ物を堆肥に加工すれば、有用な地域資源となります。酪農農家が堆肥を作り、稲作農家等が肥料として活用し、稲作農家が米麦を生産する際に生じる「わら」を、畜産農家が家畜の餌や敷きわらとして利用しています。

このような生産品目の異なる農家の連携を進め、環境に配慮した資源循環型の農業システムを構築することが重要となっています。

土づくりの拠点施設 土づくりセンターの整備

平成20年度に本格稼働した「JAく
るめ西部土づくりセンター」は、市内の
酪農農家で飼養された乳牛の排せつ物
から生産された一次発酵堆肥を受入
れ、完熟堆肥として製品化を行う施設
です。

西部土づくりセンターで生産された
完熟堆肥は、主に小麦を生産する農業
者が天然由来の安全な肥料として活
用しています。

また、野菜や果樹を生産し、土づく
りと減農薬・減化学肥料を進め、福岡
県よりエコファーマーの認証を受けた
農業者にも利用されています。

一方、市では平成21年度に西部土づ
くりセンターに隣接し、土づくりにつ



【JAくるめ「どりよく」のお問合せ先】
JAくるめ西部営農センター
電話(0942)26-4111

いて市民へ周知・啓発することを目的
とした施設「土づくり広場（農業体験
広場と交流広場）」を整備しました。
農業体験広場は、西部土づくりセン
ターで生産された良質な堆肥を使用
して農産物の生産体験ができる場所と
して、市民に土づくりの大切さを周知
することを目的に設置されています。

土づくりセンター見学と 黒豆収穫体験会を開催

JAくるめでは、市と連携し、平成
21年11月に、西部土づくりセンターの
施設見学会と農業体験広場で生産さ
れたジャガイモと黒豆の収穫祭を開催
しました。

この催しには、約150名の市民が参
加し、土づくりセンターで完熟堆肥が

製造される工程を見学するとともに、
土づくりセンターの完熟堆肥を施用し
て栽培されたジャガイモと黒豆の収穫
体験を行い、農産物の生産の基本であ
る土づくりの大切さを学びました。
また、会場では、収穫されたばかりの
ジャガイモのフライドポテトがふるまわ
れ、新鮮で旬な農産物を楽しみました。

(上)畜産農家が一次発酵処理した排せ
つ物を搬入し、土づくりセンターで完熟
堆肥に加工しています。

(中)土づくりセンターの堆肥で土づく
りを施した農業体験広場で開催された
「土づくりセンター見学と黒豆収穫体験会」。

(下)野菜生産農家や一般家庭の家庭菜
園にも利用しやすいように袋詰めされ
た製品「どりよく」。粒の大きさにより2
つのタイプがあります。

ハウスの加温に要する燃料費を節約し 環境に配慮した農業を実践



(上)バラのハウス内に設置された循環扇と二重
皮膜(写真は畳んだ状態です)。

(下)燃料費を軽減するために設置された大型の
空調機と断熱シート

安武町のハウス約3,700㎡でバラを生産する認定農業者の亀山俊一さんは、ハウス
内の温度を生育に必要な温度に保つために、冬季を中心にボイラーによる加温を行って
バラの栽培を行っていましたが、燃料費を節約し、環境に配慮した農業を実践するために、
様々な工夫を施しています。

ハウス内に循環扇を設置し、ハウス内の上部に溜まった暖かい空気をハウス内に循環
させるとともに、ビニールの二重皮膜や断熱シートの設置によって、ハウス内の保温性を
高めています。

また、大型の空調機であるヒートポンプを設置し、燃料費を節約するとともに、ハウス内
の温・湿度の平準化により、病害虫の発生を抑制し、品質の高いバラの生産を行っています。